

作成日	2025 年 6 月 21 日
研究科名	英文学専攻

自己評価：S・A・B・C

評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

参照資料

- ・令和 6 年度自己点検評価シート
- ・令和 6 年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画および R7 学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等
- ・その他参照した資料（令和 6 年度、7 年度 FD 実施計画・報告書、令和 5 年度、6 年度学部 2 回生対象意識調査アンケート結果報告）

【現状分析】

(ア) 令和 6 年度自己点検・評価にて、全般的な問題点として大学院生が定員を大きく下回る数しか在籍していないことを挙げ、学生の確保を課題としていた。

令和 7 年度の状況として、博士前期課程に 2 名在籍しており、昨年度から 100%増となっている。しかしながら、今年度入学の学生は外国人留学生であり、英文学専攻独自の課題解決の取り組みが成果をあげたものとは考えがたい。

専攻の取り組みとしては、令和 5 年度と 6 年度（令和 6 年 12 月 4 日 J525 にて対面開催）に学部 2 回生に対して大学院進学説明会を開催している（令和 6 年度 FD 実施計画・報告書参照）。かりに進学説明会が大学院生確保に実際に効果があるとすると、令和 8 年度以降に現れてくることになる。ただし、進学説明会で紙面記入方式で実施している意識調査アンケートでは、大学院進学に関心があるという回答は、令和 5 年度 2 回生は 6/91、令和 6 年度は 10/91 と、全体の 1 割にも満たない（学科共有資料 令和 5 年度・6 年度学部 2 回生対象意識調査アンケート結果報告 参照）。また、進学を考えない理由として、「早く社会に出たい」18 人（複数回答可、以下同様）、「さらに勉強を続けたいと思わない」36 人、「経済的理由（学費が高い）」26 人、「大学院進学後のキャリアが分からない」16 人という回答がほとんどで、英文学科／英語文化コミュニケーション学科の学生のキャリア志向の傾向が見て取れる（令和 6 年度学部 2 回生対象意識調査アンケート結果報告参照）。

内部質保証推進会議からの提言として、「在学生・外部それぞれに向けた積極的な情報発信・広報企画実施」が求められているが、学部在学生の進学が大きく見込めない以上、「外部」からの入学者確保を目指し、大学院での最新情報や教員の研究活動などをホームページ等で外部へ情報発信するなど、その方策を検討すべきであると考えます。

(イ) 英文学専攻では、最近 5 年以上課程修了者がいないため、参照する修了時アンケートの結果はない。現在博士前期課程 2 年生への論文指導を行っているが、一对一の指導が可能であるため、学生の意向を反映させた方法や内容で対応している。その成果については、今年度末の修了時アンケートをもとに来年度分析する。

カリキュラムや授業内容については、大学院アンケートの結果からも、学生へ聞き取り調査の結果からも、直ちに改善すべき問題点は認められない(大学院生アンケート結果参照)。丁寧に点検を行うため、令和 7 年度の FD として大学院生と教員との意見交換会も開催予定である。

【成果】

英文学専攻では以前から学内推薦入試を実施しており、令和 7 年度からは大学院科目先取り履修も導入し、「英文学演習 2A」、「英文学特論 2B」、「英語文献読解演習 A」、「英語文献読解演習 B」の科目を学部学生が先取りで履修できるようにした。課題解決のため制度面での改善の取り組みは行われているが、令和 7 年度学内推薦入試の受験者がいなかったように、直接的な成果には繋がっていない。

現状分析(ア)で触れた、令和 5 年度から開催している大学院進学説明会の成果は、対象が学部 2 回生であるため、来年度以降に分析することになる。

現状分析(イ)に関する成果では、在籍する 2 名の大学院学生に対面で授業内容や研究指導について、不満や要望はないか、独自に聞き取り調査を実施して在籍学生からは不満や要望は出されておらず、直ちに改善すべき問題点は発見されていない。(昨年度の自己点検シートにも記載したように)授業内容や指導方法について学生の意見をこまめに確認し教育指導に反映させてきた、これまでの取り組みが功を奏していると考えられる。来年度には、今年度末の課程修了時のアンケート結果をもとに、あらためて分析検証することになる。

【課題】

英文学専攻での大きな課題である大学院生の確保について、令和 6 年度、令和 7 年度にそれぞれ 1 名が博士前期課程に入学し、2 年前と比べると増加していると言える。しかしながら、一人は社会人特別選抜から、もう一人は外国人特別選抜からの入学者であり、今後継続的に学生が確保できる見通しはない。大学院学生の確保は、依然として本専攻の大きな課題である。

カリキュラムや指導方法については、在籍学生が少ないこともあり、大学院生アンケートの結果などを見ても、直ちに改善すべき顕著な課題は発見できない。

【改善・発展方策】

大学院生の確保という課題に向けて、学部 2 回生を対象として今年度も 11 月下旬頃に進学説明会を対面で開催し、学内推薦入試や大学院科目先取り履修などの制度について紹介して、学部在籍学生に大学院進学という進路があることを知らせる予定である(令和 7 年度 FD 実施計画・報告書、英語文化コミュニケーション学科令和 7 年度第 6 回学科会議議事録 参照)。

内部質保証推進会議からの提言として、「在学生・外部それぞれに向けた積極的な情報発信・広報企画実施」が求められているが、「外部」への情報発信も重要であると考え。今年度入学の外国人留学生に本学入学を決めた理由を尋ねたところ、ホームページで情報を得たという説明だっ

た。現在、本学大学院のホームページには学部紹介ページのような「News／新着情報」がないが、たとえば修士論文の中間発表会の開催報告など、大学院での学修や教育の取り組みが伝わるような情報を外部に向けて発信する方策が実施できないか、関連部局に前向きな検討を依頼する。

カリキュラムや指導方法については、大学院全研究科で今年度末に実施される修了時アンケートの結果を確認して、結果が専攻に提示された後、来年度の自己点検評価時までには問題点や改善要求がないか点検し、問題発見と改善の取り組みの一環とする。